

Co-Creation

with the community
2023

vol.08

CONTENTS

P1 学長メッセージ

P2 【特集】新たな連携協定

【地域連携】

P3 福岡県警察 学生サイバーセキュリティイベント開催
福岡市 ごみの減量をテーマとしたPBL

P4 古賀市 プラズマを用いた実証実験
古賀市 工場見学したいけんツアー

P5 新宮町 中学生の職場体験受入れ
新宮町 水生生物調査PBL

P6 新宮町 立花小学校ICT体験授業
篠栗町 スマホ教室

P7 福岡市 プログラミング体験教室
福岡市 ロボット大集合

【大学連携】

P8 福岡未来創造プラットフォーム 福岡未来創造プログラム

P9 東部地域大学連携 性犯罪防止キャンペーン
東部地域大学連携 認知症に関する講座

P10 東部地域大学連携 花火大会後の清掃活動
東部地域大学連携 防犯清掃パトロール

P10 FITポイント制度

Co-Creation第8号 発行にあたって

地域貢献と実社会をフィールドとする学びの機会を創出するため、社会連携室（大学・社会連携）とエクステンションセンター（資格取得・社会連携）を統合した「社会連携センター」が発足して1年が過ぎました。引き続き、地域貢献並びに地域との共生・共創（Co-Creation）を念頭に、新たなアクションと大学・社会連携活動の高度化に取り組んで参ります。

さて、本学園は、経営目標を達成するため、①戦略的広報・募集活動強化②教育の質向上、③研究の高度化・特色化、④キャリア教育・就職支援強化、⑤グローバル教育及び、地域連携・展開の強化、並びに⑥財政・ガバナンス安定・強化の6領域で諸活動を活発化させてきました。今日、これら6領域の全てにおいて相応の成果が生じ、外部から高く評価されています。2023年度は新たな大学との連携が広がりました。

そして、さらなる地域貢献として、地域が抱える社会の課題の解決を目指し、地域創生活動に全学で取り組みます。さらに地域の皆さまにはリカレント教育を提供し、こどもたちには科学技術に触れる機会を提供していきます。

この冊子には2023年度の主な活動内容を記載しております。皆様には手にとってご覧いただき、本学園の活動につきまして、より一層のご理解とご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

福岡工業大学 学長
村山 理一

大学連携

福岡未来創造
プラットフォーム
東部地域大学連携
国公立3大学連携

地域連携

福岡市 古賀市
新宮町 島原市
篠栗町

その他の連携

福岡県警察
社会医療法人財団
池友会福岡和白病院
社会福祉法人 創生会
株式会社正興電機製作所 など

連携

協定

窓口として
連絡・調整

社会連携センター

学部・学科、
各部署と協働

福岡工業大学

社会連携センターとは

福岡工業大学では、学長のリーダーシップの下、連携強化に向けて近隣自治体、大学、企業との「包括的連携協定」を積極的に活用。社会連携センターは自治体・大学・企業との窓口となっており、学内複数の学部・学科・各部署と協働し、多種多様な連携事業を展開しています。

法政大学 + 福岡工業大学

「法政大学と福岡工業大学との連携協力に関する協定」

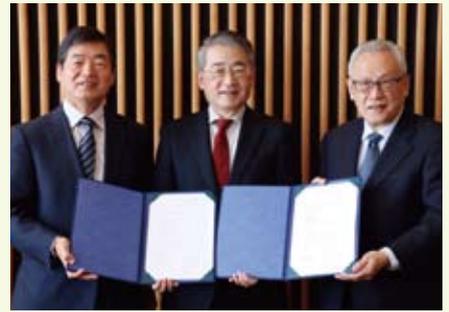
2024年3月18日、法政大学(東京都千代田区)にて、「法政大学と福岡工業大学との連携協力に関する協定」(令和6年4月1日開始)を締結しました。

本協定は、法政大学と福岡工業大学が連携協力し、教育研究活動の一層の充実と質の向上を図り、学術の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的としています。

主な内容は、教育、研究、産学連携、地域社会

への貢献、学生の交流、教職員の能力向上・人材育成・その他交流に関する事項(FD・SD活動に関する事項を含む)、その他各大学が必要と認める事項について、連携協力に取り組むものです。

今後、本学が実施しているグローバルPBLによる学生交流をはじめ、両大学のリソースを最大限に活かした様々な連携が期待されます。



福岡教育大学 + 福岡工業大学

「福岡教育大学と福岡工業大学との教員養成に関する連携協定」

2024年2月21日、福岡工業大学にて本学と福岡教育大学との教員養成に関する連携協定を締結しました。

昨今、本学からは教員を志す優秀な学生が福岡教育大学教職大学院へ入学しており、入学した学生すべてが教諭として現場で活躍しています。本実績を踏まえ、昨今の教員不足への対応、教員養成のさらなる高度化を進めるために、福岡教育大学と教員養成に関する連携協定を締結しました。

今回の協定締結により、教員を志す本学学生

の学士力を基盤とし、福岡教育大学教職大学院に進学後、高次な教育実践力とスクールリーダーシップを学ぶことで、学校改革が進む教育現場で力を存分に発揮し、学校改革を牽引できるイノベティブな教員の養成が期待されることから、両大学の連携の充実を図っていきます。具体的には福岡工業大学の学生のうち教員免許取得予定者で教員を志す卒業見込みの者に対して福岡教育大学教職大学院における特別選抜を実施することなどが挙げられます。



神田女学園中学校高等学校 + 福岡工業大学

「神田女学園中学校高等学校との連携協定」

2024年3月21日、福岡工業大学にて「神田女学園中学校高等学校と高大連携に関する合意書の調印」を行いました。

昨今、国際的なDXや脱炭素などの産業構造の大きな変化を受けて、国内でも理系人材の確保が喫緊の課題になっています。昨年度、国が3000億円の基金を使い大学に理系分野の拡充を促す事業が始まるなど、理工系人材の戦略的な育成がトレンドになっていますが、特に国内では女性の理系人材の育成に大きな課題がある

のが現状です。

この高大連携プログラムで「革新的女子教育校」を掲げ、生徒の可能性を引き出すイノベティブな教育プログラムを展開している神田女学園中学校高等学校(東京都千代田区神田)と連携し、特に同校の特徴的な「探究学習」について、本学が持つ専門分野を活かした学術的な連携・協力(模擬授業、生徒論文の評価、生徒グループ現地学習の受入等)を行うことを予定しています。この高大連携によって、女性理系人



材の育成に対する早期アプローチに臨み、社会に貢献できる理工系人材のさらなる輩出に努めたいと考えています。

共和電業 + 福岡工業大学

「共和電業と教育・研究に関する包括連携協定」

2024年3月28日、福岡工業大学にて、「共和電業との教育・研究に関する包括連携協定」を締結しました。これは、物体のひずみを計測するセンサー、「ひずみゲージ」をはじめ、計測機器や産業用センサーのメーカーとして応力計測分野において長年国内トップメーカーであ

る、株式会社共和電業(東京都調布市調布ヶ丘)との間で、教育・研究分野における交流を目指したものです。学生交流や研究者の交流を通じて、共同で新たなイノベーションを生み出すことで、双方の組織の発展に尽力することを目指します。



福岡市 + 福岡工業大学

「福岡市災害ボランティアセンター設置に関する協定」

福岡市は大規模災害時に、ボランティアによる被災者の支援活動が円滑かつ効率的に行われるよう、災害ボランティアセンターを設置することとしており、設置場所の拡充を進めています。

2024年3月25日に「福岡市」、「社会福祉

法人福岡市社会福祉協議会」、「学校法人福岡工業大学」との3者間による「福岡市災害ボランティアセンター設置に関する協定」を締結しました。

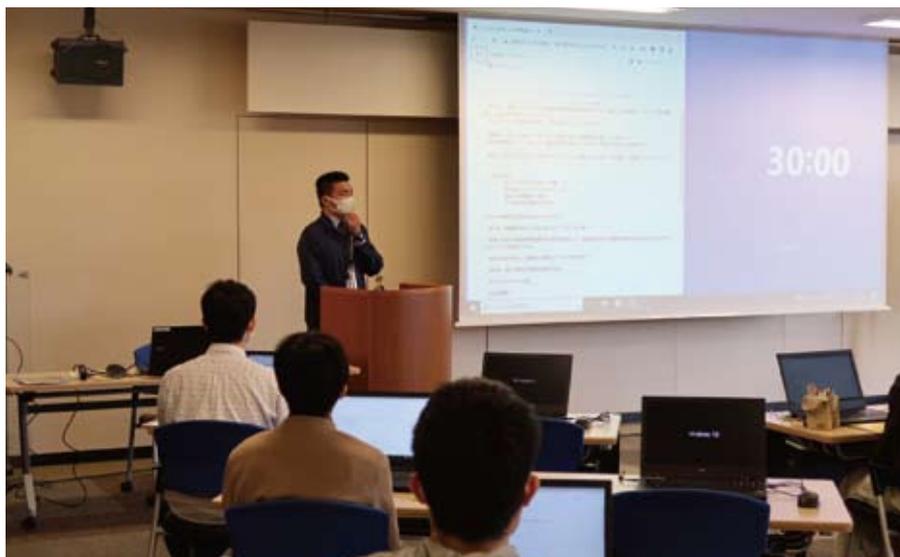
今回の協定により、災害時に福岡工業大学が

所有するFITホール(多目的ホール)を災害ボランティアセンターの設置場所としての提供のほか、本学が実施する防災教育プログラムの協力および福岡工業大学の希望する学生は同センターの運営に協力することとなりました。

福岡県警察と連携し学内で サイバーセキュリティイベントを開催

課外活動

本学学生48名



参加した学生たちは、技術者向けの競技会にならってつくられた設問を情報工学の知識やスキルを使って解いていき、その速さや正確さを競いました。

参加者からは「知識としては知っていることも実際に扱おうとすると難しいと思いました。もっと色々知りたいと興味が湧きました」「自分が学んだことが社会に対して、様々な貢献ができると気づけてよかった」「専門捜査官の仕事に興味が増えた」などの声が聞かれました。

福岡県警察からは「多くの学生に参加していただいて、捜査に繋がる技術を疑似体験いただいたので非常に良かった。将来的に情報工学を生かす道として就職先に警察を考えるきっかけにもなればと思う」とコメントをいただきました。今後も福岡県警察と連携し、サイバーセキュリティ人材の育成や、啓発活動などによる地域貢献に取り組んで参ります。

2023年4月10日、サイバーセキュリティに関する連携協定を締結している福岡工業大学と福岡県警察では、サイバーセキュリティに関する知識・スキルならびに警察専門捜査官の仕事学ぶ「サイバー犯罪捜査体験会」を本学にて開催し、学生48名が参加しました。

本学と福岡県警察は2022年6月に、本学研究者との共同研究を進展させ、サイバーセキュリティに関する協定を締結し、サイバー空間の脅威に関する情報共有や技術的な交流、人材の育成などについて連携しています。

今回の体験会は本協定の一環として企画され、参加学生48名がサイバーセキュリティの技術を競いながら学ぶCTF (Capture The Flag: 情報技術を駆使し隠された答えを見つける)のほか、ロールプレイング形式でのサイバー犯罪捜査の体験に取り組みました。

福岡県警察の担当者からは、2022年に県警察に寄せられたサイバー犯罪に関する相談件数は6316件で、過去5年で最多と説明され、サイバー犯罪が身近で危険な問題であることを再認識する機会にもなりました。

福岡市が抱えるごみの課題 授業の一環として取り組み、課題解決策を提案

コース必修科目
「フィールドワーク」

本学学生33名



社会環境学科のコース必修「フィールドワーク」科目において、福岡市環境局と連携し「ごみの減量推進」に関する課題をもとに解決策提案のための調査に取り組みました。学生達は、環境局職員による特別講義やリサイクル工場見学で見識を深め、大学周辺の一般住民の食品ロスに関する意識、福岡市の古紙回収の現状、マイボトルの普及に向けた課題などについて、アン

ケート調査やインタビュー、メール・電話での聞き取り調査で情報を収集してきました。

8月7日、福岡市環境局の職員5名に参加いただいた課題解決策の提案発表会において、本PBLに臨んだ社会環境学科3年生9グループ(33名)が、福岡市が減量施策の重点3品目に挙げている古紙、プラスチックごみ、食品廃棄物に係る課題の解決策について提案。古紙につい

ては回収ボックスの設置方法工夫やSNSを利用した啓発、プラスチックごみについてはマイボトル普及促進によるペットボトル削減やポイントアプリの導入、食品廃棄物についてはフードドライブやコンポストの普及促進などの提案を実施。提案を受けた市職員からは「いろいろな提案を聞いて、試行錯誤しながら進めたのを感じた。学生視点の分析、提案を聞いて勉強になった。提案の実効性について、より踏み込んだ検証があるともっとよくなる」といった感想や期待が述べられました。

本授業を通し、ごみについて理解を深めることに加え、チームで協働し課題解決を図るプロセスを学ぶことができました。

古賀市

電気工学科

プラズマを用いた高付加価値農業への応用研究 古賀市特産スイートコーンの早期収穫へ

必修科目
「卒業研究」

本学学生7名



発見として、プラズマ照射後の種について時間を置いて播いた場合と、直ぐに播いた場合を比較すると、時間を置いて播いた場合に発芽率が低下してしまうことなどが共有されました。

アグリたにやま様からは、タイムラプス動画で発芽から収穫までの成長の過程を確認いただき「発芽の瞬間や成長の過程、また環境の変化を見ることがなかなかできないので、見ることでよかったです」と大変喜んでいただきました。

来年度からの実験の快諾も頂き、北崎研究室からは「今後、トウモロコシの画像から長さを自動取得するプログラムを開発し、計測の効率化を試みる予定です」というお話もあり、定点観測装置の改良、またそのデータを分析することにより、より最適なプラズマ照射条件を見出せるよう4月からの実験にも期待が高まりました。

北崎研究室(工学部電気工学科)では、2018年度から古賀市様の仲介により地元農家のご協力のもと、古賀市特産「スイートコーン」の種子にプラズマを照射し、早期収穫や品質向上を目標にした実証実験と、遠隔で農園の状況を確認できる定点観測装置の開発を続けています。

2024年1月24日、実験にご協力いただいた農事組合法人アグリたにやま様、古賀市農林振興課様へ、今年度の実験についての成果報告会を実施しました。発表は実証実験に関わった研究

室の学生7名のうち代表して2名が行い、その後質疑応答・意見交換が行われました。報告会では、収穫したトウモロコシについて条件ごとの大きさ、糖度などの違いや、研究室で開発した定点観測装置によるタイムラプス動画での成長状況について説明を実施。今年度の実験では目標とする早期収穫や大きさや糖度などの品質向上については、すべての項目を向上させる条件を見出せていないため、次年度も引き続き検証を進めていく予定であること、発芽率に関する新たな

古賀市

システムマネジメント学科

地元企業の魅力を子供達へ伝承する 『工場見学したいけんツアー』を企画・開催

必修科目
「システムマネジメントゼミナールⅡ」

本学学生21名

参加児童生徒36名



包括的連携協定を締結している古賀市では、毎年、本学ならびに古賀市に事業所を置く企業と連携し、子ども向けの工場見学ツアーを開催しています。本学の情報工学部システムマネジメント学科では、企業と連携した課題解決型学習の一環として、本取り組みの企画・運営に携わっています。

今年は、3年生19名とメンターの4年生2名が本取り組みに参画しました。

2023年8月8日、天候にも恵まれ、第11回古

賀モノづくり博「工場見学・体験教室」工場見学したいけんツアーとして、新型コロナウイルスの影響から実に4年ぶりの開催となりました。今回の工場見学ツアーでは、古賀市に事業所を置く工業系や運送系など4社の企業に、古賀市の小・中学生36名が訪れて、会社の説明を受けたり、工場内でのモノづくり見学・体験を楽しんだりし、最後に各グループの子どもたちによる振り返りのワークと発表がありました。

ツアーを終えた小中学生の発表では「古賀にこんなにたくさんの工場があることに驚きました」、「金属加工の溶接作業では、温度が1,400度もあるのに驚いた」、「工場の大きさに驚いた」、「古賀で作ったものが海外に届けられているのに驚いた」と、まちの企業を実際に見て、多くの発見や驚きを感じている様子が報告されていました。

新宮町

中学生へ職場体験学習の受け入れ実施

課外活動

参加生徒19名



音響機器、ラジオ、カメラ、時計などの工業製品を見学し、今日の私達の豊かな生活は、昔の人達と産業によって成り立ってきたことを知る特別な機会となりました。

職場体験学習に参加された生徒の皆さんは、集合時間に遅れることなく揃い、到着から早々に清々しく礼儀正しい態度で「おはようございます!よろしくお祈りします!」と元気な挨拶で来校され、予定通りに体験学習がスタートしました。

体験学習の開始にあたり、本学窓口となった社会連携センターの開始挨拶から、それぞれの部署へ誘導後、職場体験学習に臨んでいただきました。

本学は新宮町と包括連携協定を締結し、様々な連携事業の展開と地域貢献活動を推進しています。

この度、新宮町への地域貢献活動の一環として、2023年8月28日9:00~14:30新宮町立新宮中学校2年生の生徒19名が来学し、大学をフィールドに職場体験学習を実施しました。

当日は、本学の学術支援機構からIT・グローバ

ル・社会連携・モノづくりの推進に関わる4部署ならびに附属図書館の仕事をテーマに、生徒様に予め学びたい部署の希望からグループが構成され、大学の多種多様な仕事を学び、その一部を体験いただきました。

また、共通体験として、本学施設である「音とモノづくりの歴史資料館」を訪れ、生徒達が今まで見たことのない、未だに動作可能な歴史ある

新宮町

社会環境学科

ゼミ活動で地元の川や海をフィールドに水生生物調査を実施

必修科目
「ゼミナールI」

本学学生9名



包括的連携協定を締結している新宮町の川や海の水生生物の生息状況について、社会環境学部 乾教授の「ゼミナールI(2年生対象)」で調査を行っています。

これは、2021年度「新宮町および相島の海・河川を中心に、町内に生息している甲殻類をはじめとする無脊椎の生息状況を明らかにする」というテーマの調査を実施、それから2年後となる2023年度に改めて調査を行うものです。今回は新たに、調査結果をもとに課題を発見し、水生生物の保全について検討、その方法等について新宮町へ提案することを目標としています。

【キックオフ:2023年4月19日】初回は新宮

町環境課 安河内課長と今村主幹および今年度の履修者を対象に、2年前の調査に携わった現4年生から調査結果の報告がありました。新宮町環境課からは、「書面の報告書はいただいていたが、調査した学生から直接報告してもらう機会はなかったため、理解が進んだ」とのコメントがあり、「今年度は調査地区をプラスし、重点ポイントを設定しながら調査にあたっていただきたい」との要望が述べられました。

【実地調査:2023年6月~継続中】10月までに6地区の調査が終了しました。新宮浜は綺麗な砂浜が特徴的で目視でも魚が確認しやすく、スズキやヒラメ、クロウシノシタ、ヒゲタイ、絶滅

危惧種のドチザメ(EN:IUCNレッドリスト)など、7種が確認されました。

【中間報告:10月18日(水)】新宮町環境課にお越しいただき中間報告を行いました。調査では6地区で59種の生物が確認され、絶滅に近い生物4種も確認されたことから、今後保全していく必要があるとの報告がありました。新宮町からは採取された外来種の影響や多数生息していると思っていた生物の減少等、生態系の変化に関する質問があり、今後も連携しながら調査を進めていくこととなりました。

新宮町立小学校

システムマネジメント学科

学生が小学生を対象に ICTをテーマとした授業を実施

必修科目

「システムマネジメントセミナーII」

本学学生7名

参加児童14名



2024年2月19日に本学学生が立花小学校6年生14名にICT体験授業を行いました。

今回は、情報工学部システムマネジメント学科7名の学生が2チームに分かれ、それぞれが“人間とコンピュータの役割”について授業を設計、1チームは「お菓子の買い方をテーマに、人間とコンピュータの役割を考えよう」というテーマ、もう1チームは「迷路の解き方について考えてみよう」というテーマで、パソコンを使用してICT体験授業を実施しました。その後、大学の食

堂でランチ体験、図書館・モノづくりセンターなどの学内見学を行いました。

引率の先生から、学生の授業では、情報技術の有用性や特性を感じ取ることができ、脆弱な部分に人間が介入することで、より効果的に活用することができ、人間の暮らしも豊かになることを感覚的に理解していましたと感想をいただきました。社会連携センターは、今後もICT教育プロジェクトとしてのPBL授業をサポートしていきます。

篠栗町

自治体と連携し学生が主体的に企画して マンツーマン形式のスマホ教室を実施

課外活動

本学学生9名

参加者延べ32名



2024年1月12日、包括的連携協定を締結している篠栗町と連携し、本学の学生9名が篠栗町総合保健福祉センター「オアシスさざぐり」にて、高齢者の方にスマートフォンの活用を促す「スマホ教室」を学生が自ら企画して開催しました。

今回は本学と町との介護予防に関する取り組み「さざぐり元気もん活動(教養力育成センター 植崎教授)」の一環として実施され、昨年からの2回目の開催です。

今回は、1日に基礎編2回、応用編2回の計4

回、それぞれ1回60分間のマンツーマン形式で講座を実施。

基礎編ではスマホのカメラやナビゲーションバー、ブラウザ検索など基本的な操作方法、応用編ではLINEの使い方をレクチャーしました。講座には65歳から84歳の延べ32名に参加いただき、学生たちはスマホの使い方や活用例を笑顔で丁寧に説明し、参加者と大学生との交流を交えながらの楽しいスマホ教室となりました。

今回の内容は、昨年度に実施した「スクール

方式」によるスマホ教室において、参加者毎に進捗が異なり、質問も多様だったなどの課題を振り返り、学生達が参加者に応じて個別最適化する「マンツーマン方式」をプロジェクト形式で企画し、進行、説明などすべて学生主体で実施しました。

講座を終えた参加者からは「新しい事を知れてとても満足した」、「わからない項目をわかりやすく丁寧に説明していただき理解しやすかった」、「日頃のモヤモヤが一気に解決できた」といった声が聞かれました。

企画した学生メンバーは「準備は大変だったけど当日はとても楽しく教えることができ良かった」、「自治体の方と打合せをしたり、実際にメールのやり取りを見たりすることができて、とても勉強になった」と話しており、学生にとっては実社会での地域貢献活動を通じて、貴重な学びの機会となりました。

和白東公民館

情報システム工学科

公民館で出前授業

ロボットを使ったプログラミング教室を実施

課外活動

本学学生2名

参加児童12名



を確認した後、その動きをプログラミングして、シンクロナイズドダンスを披露。その後は、黒の線で描いたコースをセンサーで読み取って走らせるライトレールを学びました。参加者は、友だちと協力してコースを改良するなど、さまざまに試行錯誤を行い、盛り上がりました。

続いてドローンロボットを使った学習を実施。まずはコントローラーのジョイスティックによる操作でドローンの動きを確認し、操作の難しさを体験しました。車型同様、テンキーのボタン入力によるプログラミングを行い、前後、左右、上下と旋回の3次元で動作するドローンのプログラミングを実践しました。普段触ることのないドローンの操作に苦心しながら、参加者は楽しんでいく様子でした。わかりやすく指導する学生にとっても貴重な経験となりました。

これからも社会連携センターでは校区の要望に応じていきます。

2023年8月10日、和白東校区の和白東公民館が主催する「こどもチャレンジ講座」にて、情報工学部情報システム工学科 木室研究室が小学生対象にロボットプログラミング教室を開催しました。

これは、和白東公民館で小学生の夏休みに「情報」に関するこども向けの講座を行いたいという公民館の要望に応えたものです。今回はプログラミング教室ということで、大学から情報シ

ステム工学科の木室教授が講師となり、和白東校区の小学生12名が、ロボット教材でプログラミングの基礎を学びました。同研究室に所属する大学生2名も、サポートとして参加しました。

当日は台風6号の影響が心配されましたが、子どもたちの熱意からお昼前には晴天になり、無事開催されました。参加者は、1人1台配布された車型ロボットの上部にあるボタンを操作して、前後に進んだり左右回転したりする動き

美和台公民館

モノづくりセンター

小学生対象にロボット操作体験を実施

課外活動

本学学生9名

参加児童11名



2023年8月23日、夏休み中の美和台校区の小学生11名と引率者12名が、本学モノづくりセンターに来学しました。

これは、東部地域大学連携の一環で各公民館の要望に応える活動の一つとして、ロボットの体験学習を行ったものです。

美和台公民館の子どもの健全育成事業の一つとして行われたこの体験学習のテーマは「ロボット大集合」です。モノづくりセンター施設の紹介のあと、小学生は2班に分かれて、二足歩行ロボット、ロボットアーム、ロボット相撲、3Dプ

リンターなどデジタルファブリケーションを体験しました。最初は緊張気味だった小学生も実際にロボットに触れると、楽しそうにロボット操作などを行っていました。

本学学生9名はそれぞれのブースでロボット操作を小学生に教え、体験をサポートしました。最後の質疑応答では、小学生が元気よく「将来どのような職業につきたいか」など質問をして、大学生が丁寧に自己紹介を交えながら、答えていました。ロボット体験後には本学の学食での食事体験し、全体として貴重な体験ができた

好評でした。

福岡工業大学は、今後も近隣地域のニーズにこたえ、地域貢献に取り組んで参ります。

学生が香椎商店街の活性化を 目指して活動

課外活動

本学学生5名

他大学学生31名



福岡未来創造
プラットフォーム

地域連携

大学連携



福岡都市圏の14大学、福岡市、産業界による産官学連携の「福岡未来創造プラットフォーム」では、地域貢献活動を通じた学生交流を目的に学生ネットワーク構築事業に取り組んでいます。商店街活性化をテーマに香椎商工連盟の若手リーダーの方々と力を合わせて実施してきた商店街PBLですが、2023年度は8大学36名

の学生が応募して、香椎商店街の活性化に取り組みました。その一環として、2023年10月9日に開催された「香椎勝負まつり」には、17名が参加して学生企画のブースを出展し、Instagram投稿での広報活動やチェキの撮影など行い、活性化に一役買いました。

他の学生と地域について考える 「創生ワークショップ」を開催

課外活動

本学学生5名

他大学学生13名



福岡未来創造
プラットフォーム



2023年11月25日9時から18時まで、本学にて福岡未来創造プラットフォームの福岡未来創造プログラムの1つとして「地域創生ワークショップ」が開催され、本学学生5名、5大学13名が参加しました。講師として教養力育成センターの橋崎教授、坂本助教や、福津市未来共創センター職員2名をお招きしチームビルディングと、地域課題をテーマとした課題解決ワークショップを実施。各

チームからは、地域をPRして担い手を集める「交流で育む住みやすい町」、豊富な資源を生かし交流や学びの場を提供する「学びの地域 勝浦」、農業体験や食育を行う「農業育成プログラム」という観点から発表が行われました。学生たちは、自分たちの住む地域が抱える課題を自分事として捉え、これからの地域の在り方を考えるいい機会となりました。

東部地域大学連携

香椎駅で 性犯罪防止キャンペーンを開催

課外活動
本学学生7名
他大学学生4名



2023年10月18日17時からJR香椎駅において「性犯罪防止キャンペーン」が行われ、本学学生7名が参加しました。

これは、福岡県東警察署の性犯罪防止キャンペーンに福岡工業大学、九州産業大学、福岡女子大学の東部地域大学連携「女子学生のための防犯推進協議会」が参加するかたちで、九州産業大学、福岡女子大学の学生と共に性犯罪防止の啓発グッズの配布などを行ったものです。

福岡県では夏から秋にかけて10代から20代の女性を中心とした性犯罪被害が多発しており、同年代である女子学生が駅を利用する女性を中心にグッズの配布、声かけを行うことにより、一層の防犯意識の高揚を図る目的で実施されました。

参加学生たちは東警察署の方の指導の下、駅を行きかう方々に防犯意識を高める声かけを行い、用意されていた啓発グッズ200セットを配

布しました。

その後、防犯をテーマとした「こちらJ:COM安心安全課」の取材を受け、代表の学生が、この活動に参加した理由などを話さざりませんでした。

東部地域大学連携と福岡東警察署では、女子学生の皆さんが性犯罪の危険性を認識して『自分の身は自分で守る』という意識を広めていくために、協議会の活動を引き続きサポートしていきます。

東部地域大学連携
東区認知症に優しいまちづくり事業

地域と連携した 認知症への理解を深める講座を開催

課外活動
本学学生延べ10名
他大学学生47名



福岡工業大学、九州産業大学、福岡女子大学で構成する「東部地域大学連携」では、福岡市東区が若い世代に対し、認知症への理解を深めてもらうために取り組んでいる「福岡市東区認知症に優しいまちづくり事業」と連携し、講座やフィールドワークなどのイベントを行っています。この一環として、まず、2023年10月21日に認知症サポーター養成講座、ユマニチュード講座があり、本学学生8名と教職員4名が受講しました。

続いて11月11日には、認知症の方への声かけ訓練のフィールドワークが開催され、本学の学

生2名が参加しました。

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気によるものです。家庭や社会の中で高齢者と関わる場面も多い現代ですが、福岡市では、認知症の方の意思を尊重し、できる限り住み慣れた地域の良い環境で、自分らしく暮らし続けることができるまちづくりをすすめています。

そこで認知症を正しく理解し、認知症の方と家族を温かく見守るため、「認知症サポーター養成講座」を経て、実際に困っている認知症の方へ声をかける訓練を行うフィールドワークを実施

したものです。当日は東区の担当者、あいなかのみネット等事業所ネットワークや認知症ライフサポートワーカー、いきいきセンターふくおか等38名、和白東校区の方が41名、東部地域大学連携の学生や職員18名など97名が集まりました。

東区の状況説明や、認知症サポーター養成講座の振り返りの後は2コース各6班に分かれて、屋外で認知症役の方に声をかける訓練を行いました。なかなか思うような返答が得られない状況で戸惑いながらも順番に声をかけあい、その後、どのような設定だったのか、どう声をかけたら良いのかを認知症役の方にお話いただきました。

最後に、講師の方々も班に入り、学生や地域の方と共に感想などを述べあいました。本学の学生からは「この練習を実際の生活に生かしたい、家族などに共有したい」などの感想が述べられました。

東区花火大会後の会場清掃活動を実施

課外活動

本学学生25名

他大学学生35名



東部地域大学連携へFukuoka東区花火実行委員会より、2023年4月22日の東区花火大会後の清掃活動に協力依頼があり、九州産業大学、福岡女子大学、福岡工業大学から、当日の警備や、翌日の清掃に、全体で60名程度参加しました。当日は風が強かったのですが、お天気には恵まれ、無事花火大会は終了し、翌日は地域の方とともに清掃活動を行いました。

学生からは「たくさんの力があって花火大会は成り立っていると感じた。」「清掃活動をして気持ちすがすがしい。」などの感想がありました。

学生が防犯清掃パトロールを開催

課外活動

本学学生7名



2023年12月20日、16時から、「防犯清掃パトロール」と称して寒い中、7名の学生が集まり、福工大前駅から踏切、3丁目の住宅街、上和白公園の中を通過して、A棟裏までごみを拾いながらパトロールしました。これは、東部地域大学連携の活動として本学、九州産業大学、福岡女子大学がそれぞれの大学で防犯清掃パトロールを行った活動の一環です。

一時間ほど歩き、最後に話し合いをしました。「清掃を行ってこの辺は綺麗だと思っていたけれどよくよく足元を見ればたくさんゴミが落ちていて中でもタバコが多いなど思った。」「空き地や目につきにくい場所にゴミが多かった。」「住宅街は道が狭く歩道がないのに、結構スピードを出した車も通るので、危険だと思った。」などの感想が述べられました。

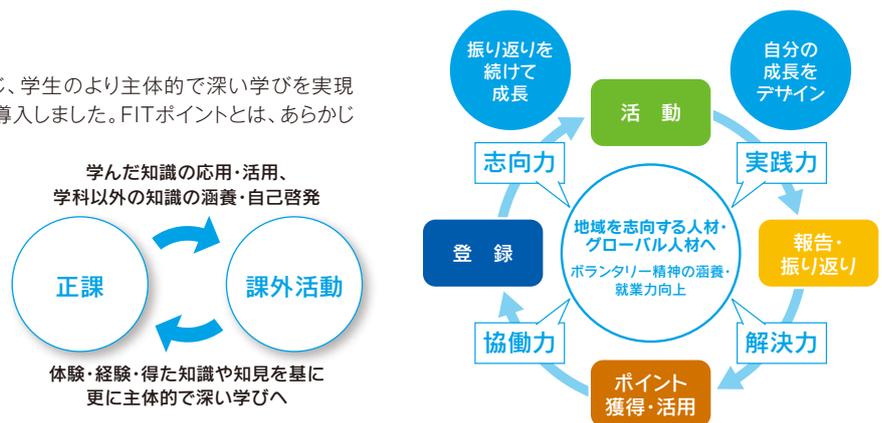
FITポイント

社会貢献
自己啓発

FITポイント制度で地域貢献・社会貢献・自己啓発など課外活動に取り組む学生を支援します。

FITポイント制度とは？

福岡工業大学では授業以外の活動を通じ、学生のより主体的で深い学びを実現するため、「FITポイント制度」を2019年より導入しました。FITポイントとは、あらかじめ大学が指定する課外活動に取り組んだ学生が学習ポートフォリオ (FIT-AIM) で振り返りを行うと、①活動内容 ②移動距離 ③期待される成果などを勘案したポイントを獲得できる本学独自の学修支援制度です。この「FITポイント制度」は、学生の皆さんが主体的に活動に参加し、記録し、振り返ることによって自分の成長を確かめ次の成長につなげることを目的としており、獲得したFITポイントは、学内店舗で使用できます。



2023年度 主な活動一覧

4月	<ul style="list-style-type: none">● 福岡県警察「サイバー犯罪捜査体験会」● 本学「社会連携センター説明会」● 篠栗町「連携協議会」	<ul style="list-style-type: none">● 東部地域大学連携「花火大会後の清掃活動」● 古賀市「プラズマを用いたトウモロコシ実証実験 播種」
5月	<ul style="list-style-type: none">● 古賀市「児童保育所補助指導員」● 新宮町「こども体験クラブ」● 福岡市「ごみ減量PBL」	<ul style="list-style-type: none">● 東部地域大学連携「どんたく東区演舞台」● 新宮町「新中PLUS+ONE」
6月	<ul style="list-style-type: none">● 福岡市「ラブアースクリーンアップ2023」● 東部地域大学連携「学生懇話会・女子学生のための防犯推進協議会」● 福岡未来創造プラットフォーム「白熱! 未来創造教室in福工大」	
7月	<ul style="list-style-type: none">● 東部地域大学連携「防犯セミナー」● 古賀市「古賀駅西口再生プロジェクト」● 古賀市「連携協議会」	<ul style="list-style-type: none">● 古賀市「プラズマを用いたトウモロコシ実証実験 収穫」● 新宮町「連携協議会」● 福岡市「学生サポーター」
8月	<ul style="list-style-type: none">● 古賀市「工場見学したいけんツアー」● 福岡未来創造プラットホーム「共同開講科目エンジニア天神クラス」● 和白東公民館「プログラミング教室」● 東部地域大学連携「SDGsを学ぶ」● 奈多公民館「学習指導ボランティア」	<ul style="list-style-type: none">● 新宮町「寺子屋見守りボランティア」● 新宮町「中学職場体験学習」● 美和台公民館「ロボット大集合」
9月	<ul style="list-style-type: none">● 古賀市「高齢者メッセージカード作成」● 東部地域大学連携「放生会パトロール」● 福岡未来創造プラットフォーム「商店街PBL」	<ul style="list-style-type: none">● 福岡市「和白東小学校ロボット体験教室」● 美和台公民館「高齢者のためのアクセサリー教室」
10月	<ul style="list-style-type: none">● 東部地域大学連携「東区芸術文化祭」● 東部地域大学連携「香椎駅性犯罪防止キャンペーン」● 東部地域大学連携「認知症に関する講座」● 和白東校区「秋祭りボランティア」	
11月	<ul style="list-style-type: none">● 和白公民館「文化祭ロボット操作体験」● 東部地域大学連携「認知症声掛け訓練」● 東部地域大学連携「ユースフェスタ」● 東部地域大学連携「学生懇話会・女子学生のための防犯推進協議会」● 新宮町「図書館まつりプログラミング講座」● 新宮町「立花山竹灯籠まつり」● 福岡未来創造プラットフォーム「なみき芸術文化祭」	
12月	<ul style="list-style-type: none">● 東部地域大学連携「サンタウオーク」● 東部地域大学連携「防犯清掃パトロール」● 三苦公民館「ロボット操作体験」	<ul style="list-style-type: none">● 和白公民館「餅つきボランティア」● 和白東公民館「多文化共生講座」
1月	<ul style="list-style-type: none">● 篠栗町「高齢者スマホ教室」● 篠栗町「地域創生PBL提案会議」● 篠栗町「野球教室」● 東部地域大学連携「学生懇話会・女子学生のための防犯推進協議会」	
2月	<ul style="list-style-type: none">● 新宮町「立花小学校ICT授業」● 那珂川市「岩戸北小学校ICT授業」● 東部地域大学連携「推進委員会」● 東区「キャンパスサミット」● 大学「福岡教育大学との教員養成に関する連携協定締結」	
3月	<ul style="list-style-type: none">● 東部地域大学連携「学長懇話会」● 福岡未来創造プラットフォーム「商店街PBL成果発表会」● 大学「法政大学との連携協定締結」● 高校「神田女学園中学校高等学校との連携協定締結」● 福岡市「福岡市と福岡市社会福祉協議会との福岡災害ボランティアセンター設置に関する協定の締結」● 香椎東公民館「ロボット操作体験」● 企業「株式会社共和電業との包括連携・協力協定を締結」● 新宮町「連携協議会」	